

かわかみ通信

2019年11月
霜月号

今年はインフルエンザの流行が例年よりも早くなるかも分かりません。手洗い、うがいの励行、ワクチン接種など、皆さん注意してください。

さて、これまで神社、神紋、八幡神社―八幡信仰などについて、いろいろと回り道をしながら書いてきましたが、今回とりあえず、おおまかな「まとめ」をしたいと思います。

要するに氣比神宮とは何ぞや、ということであります。

① 敦賀の氣比神宮は、中身についていえば、氣比社（仲哀天皇―日本武尊）と八幡社（神功皇后―応神天皇）



北小学校校庭に鎮座する「土公」さん

の融合したものではないか？ 融合には当時の権力構造から、そうせざるを得なかった政治的意味が感じられる。

② 手筒山から現在北小学校の校庭にある「土公」に降り立った

神は、氣比大神―伊奢沙別命（いざさわけのみこと）。この神はあるいは天日槍（あめのひぼこ）、または都怒我阿羅斯等（つぬがあらしと）とも、といわれている氣比神宮境内にある角鹿神社（つぬがじんじや・祭神、都怒我阿羅斯等命）が、それ故最も古く、氣比神宮の原型であるといえるのではないか。



氣比神宮摂社「角鹿神社」

総参祭（そうのまいり）は仲哀―神功の物語となっているが、氣比大神（伊奢沙別命・天日槍）と常宮大神（天八百満比咩命・あめのやおよろずひめのみこと、比売許曾神・ひめこそのかみ）の物語が原型ではないか？

伊奢沙別命はじめ氣比神宮の全ての神々が常宮へ参るということから、そのことがうかがい知ることができます。702年仲哀天皇、神功皇后が合祀され氣比神宮となる以前の様子がうかがい知ることができる。

③ 天日槍は新羅の王子とされ、現在敦賀半島の先端にある白木地区や杳見に明らかに新羅の神を祀っている神社が存在する。また、近隣にも今庄の新羅神社や白髭神社、琵琶湖周辺にも白髭神社や大兵主神社等のように同様の神社が多数見られる。ちなみに神功皇后の出身は息長（おきなが）一族で、この一族は天日槍と関係があるとされている。

④ 三つ巴紋について。八幡神社ではない出雲系の神々（新羅との関係が深いと考えられる。素戔鳴命・すさのおのみことも含める）や天孫系でも天孫降臨説話に登場する神々（猿田彦命・大山祇命）やそれから遠くない時期に活躍した神々（彦火火出見命・彦火明命）を祀る神社にもこの紋が使われている。特に各地の有名な古社に三つ巴を神紋としている例が多く見られる（熊野本宮大社、多賀大社、大神神社、籠神社など）。三つ巴を神紋とする神社の数は各地にある八幡社が最も多いが、八幡社には元の神社に神功皇后、神功皇后を合祀したことを契機に名前を八幡社と変えたものも多いのではないかと。変える前については神紋は不明（そもそも紋を使用する慣わしが生まれる前から存在する神社だから）で、祀られた神々もよく分らない、知られていない場合もある。一方で八幡社の中にも三つ巴の紋が使われていない神社もあり、また、その地方特有の神々を祀っている、あまり知られていない神社で三つ巴紋を使用している例が見られるのは注目すべきことであり、即ち八幡社イコール三つ巴紋ではないということができる。三つ巴紋を採用する何らかの理由、動機がありそうだが？



応神天皇想像図



駅前にあるツヌガアフリント像

⑤ 八幡信仰について。原始八幡神信仰（宇佐の比咩大神信仰と新羅仏教とが融合したもの）が宇佐周辺に根付いていたところに畿内三輪から大神氏が天皇霊信仰（応神天皇霊信仰）を掲げて宇佐に入り八幡神＝応神天皇信仰が成立した。568年に応神天皇の霊が宇佐に現れた、とされているが、これは仏教伝来のことではないか？ 八幡神＝応神天皇との信仰が確立されたのは7～8世紀頃か？ 畿内勢力の九州隼人征伐は720年。この時軍は宇佐から出発し、この中に宇佐の軍勢も加わっている。大神氏が八幡神＝応神天皇として宇佐に入ったのは、この時期ではないのか？（あたかも、キリストを奉じた宣教師が布教に入り、その後征服軍が入っていったかのように）

ちょうど時間となりました。とりあえず、中休みということで、続きはまた次回に。（つづく）

川上医院 院長 川上 究

Qちゃんが行く

よたよた歩き

奮闘記 第十三弾

うもれためいしよたんぼうだいにまくのまき
【埋もれた名所探訪第二幕の巻】

今回の『ヨタヨタ歩き奮闘記』は前回お届けした「埋もれた名所探訪」の第二幕。調べてみると敦賀というところは歴史の宝庫。次から次と出てくる。

夏の日差しが照りつける快晴の青空。「行くぞ!」「いへ?」「いつもの問答。「沓見へ行こう。今日はお田植祭りをやっとうるやろ」とQちゃん。そういえば新聞紙などでよく目にするが、いったいどんな祭りなのかよく知らない。ちよいと調べてみると、沓見のお田植祭りは毎年5月5日、信露貴彦神社(男宮)と久豆弥神社(女宮)を渡御して「王の舞」「獅子舞」「田植式」が奉納されるとのこと



天狗の面をつけ五穀豊穡を祈る



足田、定廣院の山門にて。なんとということかQちゃんに後光が...

次を目指すは東浦の入口、鞠山(まるやま)である。鞠山といえは廃藩置県の以前、小浜藩酒井氏の分家でそのうちの一人。鞠山藩酒井氏の領地は明治2年6月敦賀藩となり、一時期ではあるが陣屋がおかれて一萬石を



これが唯一城跡と認識することができる石碑

「足壇城址」との石碑がなければ気がつかない。足壇城といえは、室町時代、朝倉氏の将足壇対馬守久保により築かれ、越前と近江を結ぶ交通・軍事上の要衝、越前最南端の防御の拠点として役割を果たした。



石垣を登るQちゃん。その上に畑が広がり、その場所が城跡とされる



新幹線の新敦賀駅の工事中。今しか見ることのできない絶景だ



敦賀藩陣屋が置かれた鞠山神社。サルスベリが満開だ

だ。何より、今新幹線の工事が最盛期を迎えている。その工事を屋上の上から見る事ができる。これは今だから許される工事の進捗を見届ける事ができる何よりの絶景だ。是非一度ご覧いただくことをお勧めする。併せて敦賀駅のホームに滑り込んでくる列車の全体を上から写真に収める事ができる。ちょうどその時も、「撮り鉄」らしき男性2〜3人がカメラを向けていた。この場所も撮り鉄の聖地になるのも間もなくだろう。



駐車場屋上から見える敦賀駅ホーム、サンダーバードが入ってきた

こうやっておっさん2人で敦賀をPRできる場所を探検する散歩はまだ続く。
好天に恵まれ、心も体も清々しい気持ちで家路につくのであった。(河)

【発行】令和元年11月15日(金)
かわかみ通信Vol. 37
(霜月号)

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松原町1-39

TEL: 0770-22-0977